大阪大学経済学研究科/経済学部

部局間協定校派遣生の海外留学体験

１．基本情報

体験談記入日（☆）	2025 年　1　月　　17 日
大阪大学での所属学部/研究科（☆）	経済学部　経済経営学科
留学時の学年（☆）	3～4
派遣ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名（☆）	☑交換留学　　□　研究留学助成金 □　その他　（　　）
渡航先国名・地域名（☆）	オーストラリア
滞在都市（☆）	シドニー
留学先大学等名（☆）	シドニー工科大学
留学先での所属学部/研究科（☆）	ビジネス学部
留学先で主に使用した言語	英語
渡航先への入国日（☆）	2024 年　　1 月　　31 日
渡航先からの出国日（☆）	2024 年　　12 月　　16 日
渡航先国での滞在期間（☆）	10 ヶ月半
同伴者の有無・続柄・年齢等	無
その他	

２．留学先の大学に関する情報

２．１授業に関する情報

履修科目名称	Business and Social Impact
履修期間	2 月～5 月
授業時間（〇分×△回）	90 分×2 回×12 週
授業形態（講義・セミナー）	レクチャー/チュートリアル
取得単位数	6
履修科目名称	Creative Industries in the Collaborative Economy
履修期間	2 月～5 月
授業時間（〇分×△回）	180 分×12 週
授業形態（講義・セミナー）	セミナー
取得単位数	6
履修科目名称	Developing English
履修期間	2 月～5 月
授業時間（〇分×△回）	120 分×12 週
授業形態（講義・セミナー）	チュートリアル
取得単位数	6

履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Innovation and Entrepreneurship 8 月～11 月 90 分×2×12 週 レクチャー/チュートリアル 6
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Introduction to Strategy 8 月～11 月 90 分×2×12 週 レクチャー/チュートリアル 6
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Sustainability in Context 8 月～11 月 120 分×12 週 チュートリアル 6
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
留学生（日本人）の割合	クラスでの日本人は基本的に自分一人。だだ、英語クラスも

	含めると日本人留学生は一定数いる。日本以外の留学生に関しての割合は知らないが、オーストラリア出身でない学生も３割くらいいる印象。
成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	講義によって変わる。基本的な成績評価方法としては、レポート、小テスト、期末テストなど。
履修科目の制限等（あれば）	留学生は１学期あたり 18～24 単位の受講が求められる。
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	
語学に関するｻﾎﾟｰﾄ(特別授業、ﾁｭｰﾀｰ、ｴｯｾｲﾗｲﾃｨﾝｸﾞに関するｻﾎﾟｰﾄ等)	利用していないので詳しくは分からないが、HELPS というサービスを使うことで、課題の添削をお願いできる模様。
授業内での留学生に対するｻﾎﾟｰﾄ等	無
その他	

２．２福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	メイン的な建物の地下にフードコートや購買、娯楽施設等が諸々整備されている。
図書館について	設備が綺麗な図書館がある。オンラインから文献や資料を利用できるため、レポートの作成等に大いに役立つ。
保健ｾﾝﾀｰ等の有無	有
ｸﾗﾌﾞ・ｻｰｸﾙ等について	年間十数ドルで加入できる。サークルの種類は豊富であるが、参加率は低いとみられる。
留学生へのｻﾎﾟｰﾄ	課題に関して、HELPS というサポートを利用できる。また、HELPS はほぼ毎日英会話練習のために生徒同士が会話できるプログラムを提供している。
オリエンテーション等学校主催の行事について	各学期のはじめにサークルの入会を促すイベントやオリエンテーションが行われる。
現地の学生との交流について	授業と寮など。個人的には学外の友人との付き合いの方が多かった。
他の留学生との交流について	同上。
学外での活動について(地域コミュニティー活動等)	アルバイトが多い印象。
長期休暇中の過ごし方	旅行がメイン。

その他	

３．ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類（☆）	Student 500
ビザの取得手続について（申請方法、申請から取得までの所要期間等）（☆）	オーストラリア大使館の HP からオンラインで申請。基本的には申請から取得完了まで一週間あれば完了する。
利用航空会社	カンタス航空
入国の際の現地空港名	シドニー国際高校
空港から滞在先への移動について（交通手段や所要時間）	学校寮まで電車で約 20 分。
入国審査について（提示した書類、審査官からの質問等）	渡航目的と滞在先。
渡航後の手続き（在留届の提出、外国人登録等）	USI の取得、OSHC(保険)の有効化手続き、在留届提出、銀行開設等。
その他	

４．金銭に関する情報

奨学金の受給	無
奨学金名	
奨学金月額受給額（円）	
入国時に用意した金額	100 ドル （結局帰国まで現金を使う機会はほぼ無かった。）
ｸﾚｼﾞｯﾄｶｰﾄﾞについて（ｶｰﾄﾞ会社名・日常の利便性）	ANZ の VISA ブランドカード。キャッシュカードとクレジットカード双方の機能を持ち、これさえあれば正直問題は無かった。
留学中に利用した銀行名	ANZ
現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	銀行店舗にて手続きを行った。 パスポートと現金、住所等の個人情報の準備が必要。
ﾃﾞﾋﾞｯﾄｶｰﾄﾞの使用について	無
日本からの送金方法について	Wise というアプリを用いて日本から送金していた。
1ヶ月の生活費（目安）	寮の家賃を除き、月 10 万弱。
その他	

５．暮らしに関する情報

５．１住居に関する情報

住居の種類(学生寮（一人部屋・	一人部屋。

二人部屋）・ｱﾊﾟｰﾄ等）	
家賃	約 4 万円/週、年間約 200 万円。
住居を探した方法・時期	2023 年 9 月 学校寮の募集開始直後の抽選申込。
荷物の運搬方法 （ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等	スーツケース１つと機内持ち込み用リュック１つ。
その他	

５．２　食生活についての情報

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	自炊か近辺の外食チェーンの利用。
1 ヶ月の食費	4～5 万円。
その他	

５．３　その他日常生活に関する情報

電話について	現地契約した SIM カード。
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄについて（Wi-Fi 環境等）	大学や寮の学内 Wi-Fi。時折接続不良が起こる。
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰについて	ノートパソコンとタブレット。
郵便について	利用していないので不明。
交通機関について	大学や寮の立地の良さもあり、電車やバスを中心に交通手段に困ることはない。基本的に支払いはクレジットカードがあれば問題ない。
治安について	基本的に治安の悪さを感じることはなかった。ただ、薬物利用の影響か、正気ではなさそうな人を見る機会は少なくない。
保険について	UTS が推奨する Medibank という会社の OSHC という基本的な保険、国内保険会社提供の海外保険。
医療機関・薬について	利用していないので不明。薬は基本的に近くのドラッグストアで調達できる。
気候と服装について	基本的には温暖だが、冬は半袖で過ごせないくらいには寒く感じた。日射量が日本に比べて尋常ではないので、夏場は日焼け止め必須。
普段の買い物について	食料は Woolworth, Coles というスーパーで調達していた。その他の日用品は、上記のスーパー、あるいは City 周辺の多様な店を利用すれば問題はなかった。
娯楽・行事について	個人的にはビーチバレー等運動をすることが多かった。

日本語の使用について	日本からの留学生と話すときに使った。
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	持参して良かったのは、運動用シューズ。 一方、予め持参すべきだと感じたのは、就活用のスーツ。
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	日本食を飽きるまで食べること。
その他	

６．就職活動に関する情報

留学前の就職活動について（セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等）	特になし。
留学中の就職活動について（海外からの情報収集、企業へのｺﾝﾀｸﾄ、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ等）	ボストンキャリアフォーラムへの参加。

７．語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	IELTS と TOEIC。
留学中の学習方法、工夫したこと等	授業において、スピーキングで苦労することが多かった。そのため、スピーキングに関しては、友人と話したり、部屋で独り言で英語で何かについて話してみる練習をしたりした。
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか（主観的な実感や具体的なスコア等）	リスニングに関しては、初めは何度も聞き返すことが多かったが、最終的には、相手の話し方の癖が余程強くない限り困ることは無くなった。 スピーキングに関しても、初めは日常会話ですら十分に行えなかったが、最終的には、日常会話＋初～中程度のアカデミックな議論が行える程度には上達した。 リーディングとライティングに関しては、伸びてはいると思うが、大きな成長実感は特にない。

８．その他

留学して得られたこと	自信(外国人相手のコミュニケーション力と英語力に関して)、推進力
留学中に困ったこと	文化の壁、日本食を食べづらいストレス、浴槽での入浴ができ

	なかったこと。
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	特になし。

９．留学体験談・エッセイ（様式任意）
留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を１～２ページ(様式任意)で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室の HP や Newsletter に掲載させていただく可能性があります）。

【留学を決めた理由】
文化的素地の異なる人とのコミュニケーションの難しさ、自身の英語力の通用度合い、この 2 点を実際に確かめるべく留学を決意しました。そして、前提として英語圏に留学したいと考えていた中で、オーストラリアは日本と気候が似て過ごしやすく、多民族国家でもあったため、自身の留学目的を達成できる適切な環境であると考え、滞在国としてオーストラリアを選びました。

【シドニーでの生活を振り返って】
学習面に関しては、授業は特定の分野に絞らず、自分の興味がある科目を幅広く履修しました。当然のように講義やグループワークが英語で行われる中で、初めは戸惑いも多かったのですが、予習復習を徹底して必死に食らいつく中で徐々に慣れていきました。その中で、大阪大学での学習との違いはやはりグループワークの多さにあり、全ての授業においてほぼ毎回グループワークの時間が設けられていました。また、生徒の気質も異なり、主張が強い学生が多く、適切に役割分担を行い、課題の着地点の方向性を決めていく場面において、特にコミュニケーションの難しさを感じる機会が多かったと思います。振り返ってみると、教授や学生との対話が多かったからこそ、実践的な英語を使う機会に恵まれ、かつ文化的素地の異なる学生とのコミュニケーションも数多く経験できたため、シドニー工科大学を留学先として選んだことは間違いではなかったと感じています。
日常生活に関しては、自分は非常に良い友人たちに恵まれていたと感じます。日常的に食事やスポーツで時間を共有し、くだらない話から将来の真面目な話を含め、多様なことを話すことができる友人を世界各地に作ることができました。現地での生活を振り返って、個人的におすすめできるアクティビティはビーチバレーです。シドニーはビーチが非常に有名なこともあり、週末は多様な国の人々が集まっているため、そこで飛び入り参加形式でビーチバレーを行うことでいろんな出会いに恵まれると思います。（実際に私自身もそうでした。）

【留学を考えている方へのメッセージ】
馴染みのない海外で、慣れない英語を使って生活していくことになるため、留学を決断すること

は容易ではないと思います。ただ、留学を経験した現在の自分としては、その決断に見合う価値の経験が得られるということは断言できるので、是非挑戦してみてほしいと思います。個人的には、「留学期間という時間的コストや費用面での金銭的コストは将来的にどうにかして埋め合わせができる」といった位のマインドを持って留学を検討してみることをお勧めします。